

小田原市スポーツ推進審議会

平成27年度第1回審議会概要

日 時：平成27年8月21日（金）14時30分から16時30分まで

場 所：小田原市生涯学習センターけやき 4階 第3会議室

出席者：【委員】

江島会長、鈴木副会長、長峯委員、加藤委員、山本委員、釘持委員、宇佐美委員、
今井委員、川向委員、小宮委員、島田委員、都丸委員

以上12名

※欠席委員：岡部委員、掛原委員、遠藤委員

以上3名

【小田原市】

諸星文化部長、杉崎文化部副部長、嵯峨スポーツ振興係長、山浦主任、鈴木主任、
岩澤主事

以上6名

司 会 それでは定刻になりましたので、開会させていただきます。

本日は公私ともに御多忙のところ、平成27年度第1回小田原市スポーツ推進
審議会に御出席いただき、誠にありがとうございます。

私は、本日の司会進行を務めさせていただきます、スポーツ課スポーツ振興係
の鈴木と申します。よろしく願いいたします。

まず、本審議会は「小田原市スポーツ推進審議会条例」に基づき、委員定数の
2分の1以上の御出席をいただきましたので、会議が成立することを御報告申し
上げます。なお、この審議会は、「小田原市情報公開条例」に基づき、公開するこ
ととなっております。したがって、市民の方が傍聴されておりますので、御
承知ください。また、議事録等のため、この会議を録音しますので併せて御承知
ください。

それでは、開会に先立ちまして、文化部長の諸星から開会にあたりまして、御
挨拶を申し上げます。それでは諸星部長、お願いいたします。

1 主催者挨拶

諸星文化部長が挨拶を行った。

2 委員自己紹介・職員紹介

司 会 次に、委員紹介及び職員紹介を行わせていただきますが、初めて会議に参加さ
れる方がいらっしゃいますので、皆様には簡単に自己紹介をお願いしたいと存じ

ます。江島会長、鈴木副会長に続き、長峯委員から都丸委員まで席の順にお願いいたします。

各委員による自己紹介を行った。

司 会 ありがとうございます。なお、岡部委員、掛原委員、遠藤委員におかれましては、本日御都合により欠席されております。

続いて、本日出席しております事務局職員を紹介させていただきます。

司会から、出席職員の紹介を行った。

司 会 それでは、議事に移る前に資料の確認をさせていただきたいと思います。まず次第がございまして、その次に委員名簿と議題（１）小田原市スポーツ振興基本指針の見直しに関する資料が、ホチキス留めで、資料1-1から資料1-3がそれぞれ１ページずつ、資料1-4が８ページまで、議題（２）地域単位でのスポーツ振興に関する資料が、ホチキス留めで、資料2-1が４ページまで、資料2-2が８ページまで、資料2-3が１ページ、議題（３）ウォーキング・ランニングの定着に向けてに関する資料が、ホチキス留めで、資料3-1が４ページまで、資料3-2が２ページまで、また、上府中ウォーキングマップが１枚、議題（４）その他に関する資料が、ホチキス留めで、資料4-1が２ページまで、資料4-2が１０ページまで、最後に、現行の小田原市スポーツ振興基本指針、及び基本指針のダイジェスト版となりますが、揃っておりますでしょうか。

それでは、議事に移りたいと思いますが、進行は会長にお願いいたします。江島会長、よろしくお願いいたします。

3 議題

（１） 小田原市スポーツ振興基本指針の見直しについて

江島会長 それでは次第に基づきまして進行させていただきます。

議題（１）小田原市スポーツ振興基本指針の見直しについて、まずは事務局から説明をお願いします。

嵯峨係長 資料1-1を御覧ください。議題（１）小田原市スポーツ振興基本指針の見直しについて、１ 見直しの必要性、なぜこのタイミングで見直す必要があるのかということですが、現行の小田原市スポーツ振興基本指針については、第5次小田原市総合計画おだわら TRY プランの前期基本計画の目標年次に合わせて、平成28年度を目標年次と設定しております。本指針を推進していくうえでの基本計画、実施計画については、総合計画の中で反映されているため、総合計画で後期基本

計画を策定するのに合わせまして、本指針についても、平成 29 年度以降、平成 34 年度を目標年次とする見直しを行う必要があります。

続きまして、2 見直しの概要について、どういった点を見直すのかについてですが、総合計画に位置付けられているので、指針の基本路線は原則継続と考えています。平成 21 年度からの継続性を保ちつつ、近年の審議会の中で議題とされてきた内容について、ここで反映させていただきたいと考えております。具体的には、地域単位でのスポーツ振興、ウォーキング・ランニングの定着に向けて、最近話題となっているオリンピック・パラリンピック、ラグビー等について盛り込んでいきたいと考えています。地域単位でのスポーツ振興について、ウォーキング・ランニングの定着に向けてについては、議題 2、議題 3 で後ほど説明させていただきます。

3 小田原市民スポーツアンケート実施要項についてですが、ここで基本指針を見直すにあたり、見直しのために必要な手順として、前回の基本指針策定時に行いました小田原市民スポーツアンケートを実施させていただければと考えております。

引き続き、資料 1-2 を御覧ください。小田原市民スポーツアンケート実施要項（案）となります。前回行ったスポーツアンケート実施要項を今回直したものです。1 目的ですが、データを入手するというので、この度、スポーツに関するアンケートを実施することにより、スポーツの実施状況を把握するとともに、市民ニーズを捉え、今後の本市における生涯スポーツ振興を図るうえでの基礎資料とし、スポーツ振興基本指針の見直しに向けた作業を進めるということになります。

具体的な事務局案の対象ですが、小田原市内に居住する満 20 歳以上の男女各 1,000 人、計 2,000 人とし、基本指針を策定した際に実施したアンケートと同じ人数でとっております。前回のアンケートと今回のアンケートをした場合の比較等を考えると母数を揃えた方が単純比較できると考えたからです。

調査項目ですが、運動・スポーツの実施状況について、スポーツクラブ・同好会について、小田原市のスポーツ振興について、地域スポーツについて、スポーツボランティアについて、小田原市のスポーツ施設について、総合型地域スポーツクラブについて、スポーツ観戦についてということになっております。

調査期間については、10 月から 12 月を考えております。調査方法は郵送を考えております。インターネット等の方法もありますが、前回アンケートが郵送で実施したため、回答方法・回答のしやすさも揃えたうえで、一定の回収率を図りたいということもありまして、郵送で調査させていただければと考えております。

調査結果については、アンケートを集計し、本市における生涯スポーツ振興を図るうえでの基礎資料とし、スポーツ振興基本指針の見直しに向けた作業を進めますので、次回の審議会で集計結果をお示しできればと考えております。小田原市民スポーツアンケートの実施要項（案）については以上となります。

引き続き、資料 1-3 を御覧ください。アンケートを回答していただく方への依頼文となっていますので、こちらは参考までに付けさせていただきました。

それでは、アンケートの具体的な内容について説明します。資料 1-4 を御覧ください。今回作成した小田原市民スポーツアンケート（案）になります。（1）運動・スポーツの実施状況については、問 1 から問 7 までというかたちになっています。問 1 につきましては、定期的に 1 回あたり 30 分以上行っている「運動やスポーツ」の有無について、「ゆるやかなスポーツ」、「野外でのスポーツ」、「競技的スポーツ」という 3 つのカテゴリーの中で情報提供していただくものとなります。この〈1〉、〈2〉、〈3〉については、平成 25 年 1 月に文部科学省が実施しました「体力・スポーツに関する世論調査」に準拠したかたちとなっております。前回の市民スポーツアンケートの選択肢とほぼ同じかたちとなっておりますが、ドッジボール・エアロビクス・ジャズダンス・シッティングバレーボール等の種目を反映して新設しました。

問 2 から問 5 につきましては、先程の問 1 の内容をさらに掘り下げて何うというかたちの質問になります。頻度・理由・どういった考えを持っているか等を前回の選択肢と同様に質問を投げかけまして経年で比較できるように設定しました。続きまして問 6 ですが、問 1 が実際に定期的に行っているものを問う質問に対して、問 6 は今後もやってみたい・今後はやってみたいといった希望も含めた質問というかたちになっています。選択肢については問 1 と同じものを設定しました。問 7 につきましては、問 1 をさらに掘り下げて記述式で書いていただき、より細かいデータを入手していきたいと考えております。

（2）スポーツクラブ・同好会については、問 8 から問 12 となっております。こちらはほぼ前回から継続した質問となりますので、時系列での比較データを分析したいと考えております。問 8 が加入クラブについての内容で、問 9 については動機や目的について問うものです。問 10 は加入していない理由を問い、問 11 につきましては新設というかたちで、平成 26 年度から実施している地域での情報発信の効果測定の意味合いを込めて、質問を設けさせていただきました。問 12 につきましては、問 7 の記述の質問とは逆の質問で、運動しない人への質問で同じ内容を問うということになります。

（3）小田原市のスポーツ振興については、問 13・問 14 で、前回アンケートに引き続き、スポーツ振興策に対する市民のニーズを問うものです。効果や今後の取り組みの希望をアンケートで情報を得られればと思っております。

（4）地域スポーツについて、地域単位でのスポーツ振興に力を入れているので、新規に設問しました。問 15 から問 19 になります。問 15・問 16 につきましては、小田原市スポーツ推進委員、地区の体育協会・体育振興会といった地域スポーツの担い手に関して、現状の知名度等について、広く市民に問いたく設定しました。問 17・問 18・問 19 につきましては、地域のスポーツへの取り組みについて、住民の方がどの程度関わっているのかを具体的にデータ化し、指針の見直し

案に反映できないかと考え、設問しました。問 17 はどういった地域の種目に参加していますかということをお聞きする内容でありまして、問 18・問 19 は地域のスポーツに参加するプロセスや役割について伺う内容となっています。

(5) スポーツボランティアについて、問 20 ですが、現在スポーツボランティアはシステムとしてほとんど立ち上がっていない状態ですが、意識調査をしたく、潜在ニーズをここで確かめたく設問しました。

(6) 小田原市のスポーツ施設について、問 21・問 22 となります。施設の評価と使用頻度について伺っていきたく思います。こちらは前回から引き続きの質問となります。

(7) 総合型地域スポーツクラブについて、問 23・問 24 で総合型地域スポーツクラブの知名度や加入の意向をお聞きするものです。総合型地域スポーツクラブについては、市としても施設の先行予約や講師派遣のコーディネート等の支援を行っておりますので、これらの設問は前回よりも回答が伸びるかどうか確認したく設定しました。

(8) スポーツ観戦について、問 25・問 26 となります。こちらの選択肢につきましては、笹川スポーツ財団が全国で実施しましたスポーツライフデータ 2014 を参考に設定いたしました。オリンピック・パラリンピックを前に市民の動向を探ろうというもので、データが得られましたら笹川スポーツ財団のデータと突合し、全国のデータと小田原市のデータとで比較できればと考えております。

問 27 以降については、回答者のプロフィールをお伺いして終了となります。前回同様、個人情報にあたるものは求めないようにしています。こちらは問 30 までとなります。

以上で議題 (1) 小田原市スポーツ振興基本指針の見直しについて、説明を終わります。よろしく御審議お願いいたします。

江島会長　　まず、資料 1-1 から質問はありますでしょうか。特にこれについてはよろしいでしょうか。それでは、実際にアンケートを実施するということですが、皆様から質問ありますでしょうか。

鈴木副会長　資料 1-3 について、4 行目の「小田原市民スポーツアンケート」を実施することにいたしました」とありますが、先程の説明ではコンピュータで無作為抽出をするということで、おそらく前回のアンケート調査対象者と重複することはないと思うので、市民ははじめてと見る可能性が高い。その時にこの 4 行目のところで、「知ることが大切ではないかと判断いたしました」ではなく、「平成 19 年度のアンケート調査に引き続き」と入れると、このアンケートははじめてではないということが分かりますと協力体制につながるのではないかと。このアンケートがはじめてなのか、どうなのかが分かるので、一文入れておいた方がよいのではないかと。検討いただきたい。

嵯峨係長 承知いたしました。

江島会長 検討をよろしくお願ひしたい。他に質問はありますでしょうか。

山本委員 資料1-4の間1の<1>ゆるやかなスポーツ（いつでも、どこでも、誰にでもできる運動やスポーツのことです。）について、いつでも、どこでも、誰でもできる運動やスポーツということの説明と選択肢を見たときに、これは小田原市の中でいつでも、どこでも、誰でもできるスポーツなのか、違和感があるが、何か基準でもあるのか。

嵯峨係長 平成25年1月に文部科学省が実施した世論調査を参考にし、設問文言自体は前回のアンケートと同じかたちとなっておりますので、選択肢に関して、必ず、いつでも、どこでも、誰でもできると確信をもっているわけではありません。案を作成する際に強く意図しているわけではありませんので、分かりやすいかたちに改めたいと思います。

山本委員 ウォーキング・ランニング・ジョギングなら、いつでも、どこでも、誰でもできると思うが、ボウリング・ダンス等はいつでも、どこでも、誰でもというには違和感がある。

嵯峨係長 趣旨としてこちらが示したいのは、ゆるやか・野外・競技の3つのカテゴリーなので、説明の文言については誤解のないようなものとしていければと思います。

江島会長 学問的にゆるやかなスポーツというものが定着しているのか分からない。また、ゆるやかなスポーツが、いつでも、どこでも、誰でもできる運動以外にあるかもしれない。

このことについて皆様いかがでしょうか。

川向委員 いつでも、どこでも、誰でも解釈の仕方に対して、私自身は学生に指導する際に、いつでも、どこでも、誰でもできる1つの種目なんてないと言っています。生涯スポーツの振興では、いつでもというのは自分が欲するときいつでも、誰でもというのは貴方も私も、その人がどういうことをやりたいか、私の一生の中、一つのライフステージの中で、0歳から今の年齢までいろんなスポーツの関わり方をしてきた。それが生涯スポーツ、みんなのスポーツであると思う。私の場合、小学校は遊びとしてスポーツ、高校・大学は競技としてスポーツとして世界のレベルまで挑戦していく、今は健康のためにやっている、すべてがこの中に入っている、それが生涯スポーツである。そこを小田原市が質問する際に、定義

づけて質問すると絞れると思う。

江島会長 運動の定義の問題になってきており、いろんな説がある。

嵯峨係長 御指摘いただいた内容を加味して生涯スポーツとしてやっていけるというニュアンスが回答される方に伝わるようなかたちで文面に入れていきたいと思えます。

江島会長 スポーツの枠組みを、ゆるやかな・野外での・競技的と捉えた解釈になるだろうか。

鈴木副会長 ()の中だけを削除して「ゆるやか」は生かした方が良い。「～動かそう、あなたの体、スポーツで～」という標語を小田原市で言っている以上、汗を流そう、動かそうといったときに、()の中を削除すれば、本人がそれを捉えるかもしれない。頑張らなくてもよい、自分に合ったものをやればよいと思うのではないか。あなたが考える「ゆるやかな」であり、競技自体のゆるやかさではないと捉えてもらう。年齢によってはまちまちに考えると思うので、誰でもという全体のことを言ってしまうことになる。()の中を削除すれば安定した捉え方になる。()の中を削除して全体を生かした方が次にもつながりやすい。

江島会長 他の皆様はいかがでしょう。

島田委員 自分がアンケートする際に、ゆるやかなスポーツとあると、ダンスとかは習わなければできないが、見よう見まねで体を動かせる運動程度という判断でできると思う。そういう捉え方もできるのではないか。ニュースポーツのゲートボール・グラウンドゴルフも、その場所に行って少し説明してもらえばできるといった、そんな感じでアンケートに答えられるのではないか。

江島会長 他の皆様はいかがでしょう。
体操にしてもダンスにしても、ゆるやかなスポーツなのかと聞かれると悩むかもしれない。

都丸委員 参考までに、県民のスポーツに関する調査を行った際に統計センターと審議会でご意見を伺っているが、その際に比較的軽いスポーツに対してどのように考えるのかと言われた。アンケートを答える方がどのように捉えるかで、文章を少し加えて出せばよいのではないか。例えば、野外でのスポーツの中でゴルフがあるが、競技として行っている方もいるときにどこに付けばよいかというような審議会からの質問があった。そういった点も踏まえて丁寧に説明した方がよいと感じた。

江島会長 他にはいかがでしょうか。
それぞれ種目から考えてしまうと、自分自身が競技でやっている方もいるので難しい。御意見があったように少し説明を加えて、その人にとってということだと思うので、丁寧にアンケートを作成していただきたい。

嵯峨係長 承知しました。

江島会長 他にはいかがでしょうか。このアンケートは過去1年間が対象か。

嵯峨係長 1年間です。

宇佐美委員 質問数は前回と同じか。

嵯峨係長 質問数は前回よりも若干増えております。大項目でいうと1項目減りましたが、(4) 地域スポーツについて、(5) スポーツボランティアについて、(8) スポーツ観戦について、新設されております。
全体として4問増えています。

宇佐美委員 前回の回収率はどうだったのか。

嵯峨係長 前回の回収率は3割程度でした。

宇佐美委員 かなりのボリュームであるが、このボリュームに対して、どれだけの方が反応してくれるかどうか。

杉崎副部長 前回の回収率は31パーセントです。

宇佐美委員 3割回収できればよいかという希望のもとにアンケートすると思う。

嵯峨係長 紙ベースですと1ページ増えています。

宇佐美委員 ボリュームがあるので、回収率に影響しなければよいと思う。

今井委員 前回同様、紙ベースでアンケートをするのか。

嵯峨係長 紙ベースで回答いただいて、手集計する予定です。

今井委員 学生にアンケートをする際、スマートフォンで回答、集計もアプリ上のできるものを使っている教員もいる。ホームページからも入れて、若い人はこちらからクリックでとすると回収率が上がるのではないかと。せっかく 2,000 人に行うので、7割ぐらいの回収率だとよい。

嵯峨係長 高齢者もスマートフォンが使えて、回収率が一緒に上がればよいが、回収の年齢層にばらつきがあるのではないかと懸念がある。

加藤委員 抽出の 2,000 人は、人口に対して 1 パーセント程度であるが、アンケートとして問題ないか。

杉崎副部長 統計学上は 1,500 人以上あれば問題ないです。530 人程度を超える回答があれば安定性のある回答となるので、前回の回答率から逆算して 2,000 人抽出としたものです。

長峯委員 アンケートの問 30 の意図が分からない。就業状況がこのスポーツアンケートとどうリンクするのか。主婦も「婦」が「夫」の人もいるかもしれない。職業を調べることがスポーツとの関連性が見えないので、この設問が必要なのか。

嵯峨係長 前回実施したアンケート調査の結果を集計したものとなりますが、スポーツの実施状況等について、性別や年代、就業状況を調査している。

長峯委員 わざわざ就業状況を聞く必要があるのか。就業によってスポーツと関連性が出てくるのか。

杉崎副部長 前回の質問時、女性、特に主婦層や子育て層がスポーツに関わっていないという結果が出ていた。それに対して、学生や競技スポーツは関わっていることが多かった。働いている方ほど年代によって関われないことが明らかに分かる状況だったので、そのことの確認を含めて前回は踏襲したいと考えております。

川向委員 問 30 について、常勤・主婦・無職とあるが、主婦で勤めている常勤の方もいるが、専業主婦なのか、ワーキングなのかどっちに付けてよいか分からない。

杉崎副部長 質問を複合的に答えられるようにしてまいります。

江島会長 問 30 でなぜこれが必要かということが分かったが、この区分けでよいかについていくつか意見が出た。

鈴木副会長 中身を広げてみてはどうか。無職でも既に退職といったように区分けをすればよいのではないか。無職でも職に就きたくても就けない無職なのか、既に退職ということであれば、セカンドライフの方のことが分かる。差別的にならないように工夫すればよいのではないか。「その他」は残しておく。

宇佐美委員 集計をしたいカテゴリーで分けた方がやりやすいと思う。例えば女性の主婦層の職業のない方の統計をまとめたい、クロスさせるときに、どういう項目でクロスをさせていきたいのかを出した方が後でとりやすい。

嵯峨係長 就業の形態よりもむしろ余暇の形態で分けることも検討したい。

宇佐美委員 あとで集計しやすいように属性で分けたい。

川向委員 問2について、問1で3つ付けたものの頻度を聞いているが、小田原市は何を見たいのか分からない。1人の人でも1週間のうち、ゆるやかなスポーツと競技的スポーツを行っている人がいるかもしれない。

小田原市独自のここに力を入れているという問がない。問7あたりが実施場所を探りたいのかと思うが、ごく一般的な設問に感じる。

嵯峨係長 問2については、前回の集計で、スポーツ実施率について調査しているので、＜1＞＜2＞＜3＞の全部合わせて聞きたいことになる。それだと分かりづらいので、＜1＞＜2＞＜3＞の全部合わせて、あなたが動いている時間はどの程度ですかと伝わるような表記にしていきたい。

山本委員 2,000人が選ばれたときにどうなるか分からないが、小田原市には住んでいるが月曜から金曜、場合によっては土曜までいない人は回答してこないと思っているのか。そういう質問はいらないだろうか。

杉崎副部長 平日は市内にいないでも、土日は地域で活動すると思うので必ずしも答えないということはないと考えています。したがって質問で限定しておりません。

江島会長 あくまでこのアンケートは見直しをするためのアンケートになるので、その点で御意見いかがでしょうか。

長峯委員 この中に小田原市のスポーツ施設一覧を掲載すれば、アンケートを受けた方に施設を周知することができるのではないか。スポーツ振興させることが目的であれば、アンケートを見て施設が分かると、この施設に行ってみようということにつながるのではないか。

宇佐美委員 問7①(2)が記述式になっているので、ここに施設一覧の掲載を入れて、それに○を付けてもらえば、設問も増えなくてすむ。

鈴木副会長 できればアンケート本体は膨らませない方がよい。参考資料として入れた方がよい。本体が膨らむと書くのに足踏みするかもしれない。

嵯峨係長 別紙であれば住所や営業時間、また簡単な申込方法を掲載できると思います。

江島会長 よろしいでしょうか。もし何か気付いたらスポーツ課に連絡してください。

(2) 地域単位でのスポーツ振興について

江島会長 議題の(2)地域単位でのスポーツ振興について、事務局から説明をお願いします。

嵯峨係長 それでは、議題(2)地域単位でのスポーツ振興について、御説明いたします。資料2-1を御覧ください。こちらにつきましては、前回の審議会でも示したのですが、あらためて説明させていただきます。

市民の健康増進のため、スポーツによる地域のコミュニティの醸成を図り、地域スポーツの活性化を目指すものです。

具体の事業といたしまして、地域で活動しているサークルやクラブ、同好会といった団体の情報を各地区のスポーツ推進委員等をお願いしまして情報収集し、小田原市体育協会のホームページに地域ごとに掲載していただき、スポーツをしたい市民の方が情報を得て、直接そこにスポーツをするために加入や見学をしていただく助けになればということで行っています。これは全市的に取り組んでいます。

臨時講師の派遣ということで、モデル地区を設定し、地区で希望する種目の臨時講師の派遣を行い、その後、地区で根付いていくことを狙いにモデルとして行っています。

次ページがこれまでの経過及び予定となっております。平成26年度から本格的に事業を開始し、平成26年度は曾我地区をモデル地区として行ってまいりました。各広報等を発信しまして曾我地区の方にイベント周知し、11月23日に親子グラウンドゴルフ大会が開催され、その際に、総合型地域スポーツクラブの小田原フレンドリークラブから臨時講師を派遣していただきスポーツ吹き矢を実施しました。

年明けには各地区のスポーツ団体の情報を小田原市体育協会のホームページに掲載させていただきました。

3月には籠場住宅でラジオ体操を実施し、その臨時講師を総合型地域スポーツクラブの城下町スポーツクラブから派遣しました。

4月に籠場自治会及び曾我体育振興会から事後報告をいただきました。今年度は桜井地区をモデル地区として、曾我地区の経験も反映し、桜井体育振興会と打ち合わせをしているところでございます。12月と2月にイベントを行う予定です。

この事業につきましては、モデル地区で2地区目となりますが、行政が最初から最後まで音頭をとって一つの事業を各地区で展開するのではございません。あくまで、臨時講師派遣はきっかけづくりとして、各地域、各スポーツをする人に気付きを促して、地区が自立的にスポーツの運営をして住民の方々も自ら動いてスポーツをする良いモデルができるかたちにもっていきたいことを目標に事業展開しております。追加の資料といたしまして、資料2-2が小田原市体育協会のホームページに掲載している地区の情報です。

残りの地区につきましても回答はきておりますが、必ずしも個々の団体が掲載を望んでいない場合もありますので情報の精査をしているところです。精査次第、小田原市体育協会のホームページに掲載してまいります。

なお、資料2-3ですが、広報小田原8月1日号に、地域でスポーツを楽しくやろうという切り口で、市民に啓発する記事を掲載しました。

議題（2）の地域単位でのスポーツ振興については以上となります。

江島会長 皆様から御質問はありますか。
モデル地区の地域の方達の反応はどうか。

嵯峨係長 曾我地区ではスポーツ吹き矢が目新しく感じたとのことであったが、講師を継続派遣してほしいとかスポーツ吹き矢の用具を購入したいといった要望はありませんでしたが、同時に開催されたグラウンドゴルフは毎週行われているとのことで、一定の効果はあったと思います。

杉崎副部長 補足ですが、この事業は市が種目を指定しているものではなく、地区体育振興会（体育協会）やスポーツ推進委員の方が地区での行事の際に、やりたい種目を挙げてもらい、その種目の臨時講師を派遣することで、希望種目、試したい種目を行ってもらっています。その種目を継続するかどうかは地区の状況によって異なりますが、その中で一部でも継続してみたいという方々がいれば、クラブ・団体とつながっていくことを期待して展開しております。

江島会長 他にありますか。

都丸委員 モデル地区の選定はどのように行ったのか。

嵯峨係長 事前調査でニーズがある程度あった地区、意向が強い地区を選ばしていただいた。

江島会長 他にはいかがでしょうか。
地域単位でのスポーツ振興について、より一層工夫して行ってもらいたい。

(3) ウォーキング・ランニングの定着に向けて

江島会長 議題の(3)ウォーキング・ランニングの定着に向けてについて、事務局から説明をお願いします。

嵯峨係長 資料3-1を御覧ください。ウォーキングをきっかけにスポーツ実施率の向上、次の負荷の高いスポーツへのステップアップ、一緒に歩いているウォーカー同士のコミュニケーション向上を効果として期待しているものです。

こちらの事業もモデル地区を選定し、地区体育振興会（体育協会）やスポーツ推進委員等とディスカッションして、モデルコースを設定したのち、コースマップを印刷し配布するものです。また、コースのお披露目としてウォーキングイベントを開催し周知するものです。イベントをきっかけにそのコースが定着し、皆様が地区で歩いていただけることを期待しております。

コースマップについては、別添のとおりです。裏面については、本市健康づくり課による健康啓発を掲載しました。

平成26年度は上府中地区をモデル地区として実施しました。上府中地区ではもともと世代間交流ハイキングを実施していましたので、それと同時にコースのお披露目を行うよう、また、東海大学の宇佐美先生に依頼し、日本スポーツボランティアアソシエーションから講師を派遣してもらい、ウォーキングに関する講演をしていただくよう調整してまいりました。6月14日に開催しましたが、残念ながら天候に恵まれなかったため、ウォーキングは行えませんでしたので、小学校の体育館で参加された方に実際にそこで歩いてもらう講演会を実施しました。

平成27年度は東富水地区をモデル地区として設定し、現在、東富水体育振興会等とコースの見所のピックアップを行っています。

今後の取組内容ですが、東富水地区については、今申し上げましたとおり、コースの設定及びウォーキングイベントを考えており、上府中地区については、成果物もできましたので、効果測定等ができればと考えております。

次に資料3-2ですが、こちらはウォーキング・ランニングの定着について、小田原市のホームページ掲載しているものです。上府中ウォーキングマップがダウンロードできるかたちとしております。

神奈川県でもウォーキングマップを作成しておりまして、こちらの方も活用し

て事業に取り組んでまいりたいと考えております。

議題3の説明については以上となります。

江島会長 皆様から御意見、御質問はありますでしょうか。

加藤委員 上府中地区では過去10年、地域を知ろうということで、地域の施設に歩く目的で、例えば国府津の電車区を見に行くなどの途中でボランティアや民生委員、社協の方にカレーや豚汁を作っていた。また、ただ歩くのではなくて地域のゴミ拾いをして、近くの施設に帰ってきて、ボランティアや民生委員が作ってくれたカレーや豚汁を食べて、地域で活動しているサークルを紹介しながら楽しんでゲームをやるなど、過去10年やってきた。

たまたま昨年テーマを与えられた。何回かやっていると行く場所も限られてしまう状況であった。上府中という身近に感じるところでマップができたことは今回はたまたま雨で中止だったが、このマップがあればいつでもウォーキングできる、参加できない方がいつでも気軽にウォーキングできると思う。

過去10年、健康寿命を延ばそうと、また地域を知ろうと地域を知ってもらおうとやってきた。世代間交流ハイキングでボランティア・社協・子ども会・老人クラブも参加してくれることが我々の意図しているところで一番よかったと感じている。一つの話で皆が話し合っただけで地域のコミュニティの場所ができるのではないかというのが最初の発想で、これが10年続いた。

江島会長 これからもぜひマップを利用していただき、おおいに盛り上げていただきたい。他の皆様は質問等ありますでしょうか。

山本委員 ウォーキングマップについて、コース上に距離表示の看板等はあるのか。マップにAEDの場所があればなおよい。

嵯峨係長 距離表示につきましては、スタート・ゴール位置を定めていないため、また、コースが民地である箇所もあるため難しいが、上府中公園を基点として何キロとの掲示を設置できないか調整しているところでございます。

AEDにつきましては、この上府中ウォーキングマップを増刷する予定はございませんので、東富水で展開した際に参考にさせていただければと思います。

江島会長 ロードマップのようなものと距離表示があるのでよいかもしれない。他に何かありますか。

諸星部長 加藤委員から上府中地区の状況を御披露いただきましたが、先程の地域単位でのスポーツ振興の話と、このウォーキングということをテーマにしたスポーツ振

興の取り組みでございましたが、上府中地区の状況等を重ね合わせて考えていただくのがよいのではないかと感じておりました。また、我々自身がそこに気付かされたところがございます。地域単位でのスポーツ振興に具体的に取り組む時点で、各地区及び団体の状況をヒアリングさせていただいて、その中で酒匂川の東側にある地区の体育振興会の活動は非常に活発で、また、各地区単位だけではなく、川東地区の中での連携がとれた行事を非常に盛んにやっておられて、そういったこと自体がモデルとなりうる活発な活動をやってらっしゃるところが私どもの認識としてあらためて深まったところです。おそらく活動を支えている方々も今後この活動を継続していくのにあたっては、様々な課題を感じておられるでしょうし、それを解決していくうえで、あるいはこれまで以上に広くその地域の人々がスポーツに携わるあるいはスポーツを支える側にまわったりするきっかけをつくるのにどうすればよいかが一番の大きいポイントです。活発に活動している団体や地域というものが、それぞれにヒアリングした中では限られた方々の中で情報がとまっていた部分があるので、それをホームページ等のツールを使ってより広い範囲で情報共有していくかで、曾我地区での試みをしたわけですが、まだまだ十分ではないと感じております。あとはつながりがない一般の方が、子どもに何かをやらせてあげたい、お年寄りの方が何かやってみたいというときにどういう方に相談すればよいか、指導いただければよいかのお悩みが発見できたので講師派遣というやり方を一度とってみましたが、それに限らず各地区での活動の中にたくさんのヒントがあると思っていますのでこのウォーキングでやらせていただいた活動と曾我地区でやらせていただいた活動等と、それだけに限らず、広い視野をもって、団体がより深く連携していけるように、情報が広く共有できる状態を生み出すために具体的に組み込んでいきたいと考えております。こういった取組が広まることで例えば、市総体での選手を探したりする際に、広い情報が共有できて展開していくのではないかと思います。

江島会長 皆様からはよろしいでしょうか。
それでは議題（４）その他について事務局から説明をお願いします。

（４） その他

嵯峨係長 主に２点御説明させていただきます。資料を基にした情報提供をさせていただければと考えております。

資料4-1を御覧ください。こちらは城山陸上競技場のリニューアルについてです。こちらは先に報道等もございましたとおり、まずラグビーワールドカップ2019について、日本ラグビーフットボール協会から小田原市で合宿を行いたいとの打診がございまして、城山陸上競技場をリニューアルすることによって、ラグビーな

いしは東京オリンピック・パラリンピックの誘致につなげていこうと動いているところをごさいますて、具体的な工事内容等について、今後、市民説明会等も含めて行っていきたいと考えております。リニューアルの内容としましては、競技スペースの整備、付帯設備の改修、管理棟の改修によって、全体的な機能や使い勝手を向上させていきたいと考えております。

今後あらたな展開等がありましたら引き続き御報告をさせていただきたいと考えております。

続きまして資料4-2を御覧ください。こちらにつきましては前回の審議会でも報告させていただきました、東京オリンピック・パラリンピック神奈川県西部連絡会、商工会議所・体育協会・小田原市等で構成されている会ですが、何回かの会議をした中で、分科会の最終とりまとめができました。スポーツ・文化振興分科会、経済活性化・観光振興分科会の2つの分科会がございまして、6月4日の時点で議論してきた内容を最終的にとりまとめ、一応の結論をみたのかたちになっております。こちらにつきましては、この資料が成果物となりますので御覧いただければと考えております。今後この分科会ですが、最終とりまとめという成果物を出しましたが、活動そのものは継続するというかたちでイベント等を行い、例えば、スポーツ・文化振興分科会につきましては、9月20日に小田原アリーナで行われます、第2回かながわパラスポーツフェスタ2015の共催等について行っていくとのことでした。

議題（4）その他については以上となります。

江島会長 説明が終わりましたが、皆様から御意見ありますでしょうか。

鈴木副会長 東京オリンピック・パラリンピックについて、神奈川県の西部連絡会とあるが、他に連絡会はあるのか。

諸星部長 これは行政だけでなく、官民一体となった連絡会ですので、神奈川県西部におきましては、この連絡会が東京オリンピック・パラリンピックを推進していく組織となります。

鈴木副会長 東部にはないのか。これは政令指定都市との関係で西部になっているのか。

諸星部長 神奈川県西部地域の行政、体育協会、商工会議所等が一緒に行っているのも西部という言い方となっております。

鈴木副会長 私は横浜市に関係しているのだが、神奈川県西部との言い方をしているのであれば、オリンピックレガシーという言葉を使った方がよい。なぜかという前回の東京オリンピックのときは、東名高速や新幹線などオリンピックレガシーが物

であった。これからは文化ということであれば、心の問題であると思う。オリンピックレガシーは未来遺産なので、これが将来残るようにするのであれば、県東部に政令指定都市が固まっていて、県西が置き去りにされている雰囲気を感じる。県知事も県西地域の活性化と言っているが、小田原市としてのオリンピックレガシーをどのように作るのか発信された方がよいのではないか。その中でウォーキングやランニングの定着の振興を市民に対して、競技者だけでなく、オリンピックレガシーとなっていくとよいのではないか。未来遺産という未来への提案をしていけるとありがたい。

諸星部長 それぞれの分科会でとりまとめた6月ぐらいまでの報告がこの資料にまとまっております。事前キャンプの誘致をしながら、今後につながる話としては障がい者のスポーツの関係であるとかスポーツだけでなく、文化に関するプログラムの問題、ボランティアの問題、そういった今後につながる話の計画づくりやパネルディスカッション等をこの連絡会の中で展開してきましたので、そういったところは議論されてきておりますが、まだまだ具体的な話となっていないところでございます。

江島会長 具体的な取組については、これからということになることでよろしいか。他にはありますでしょうか。

山本委員 西部連絡会の情報について、スポーツ関係者には伝わってくるが、一般市民への情報発信はどの程度しているのか。

諸星部長 連絡会自体も関係されている団体がスポーツ団体ではありませんので、関係者の方々にお集まりいただいての話し合いや講演会、ディスカッション等を通じて展開をされていると思います。そういった催しがたくさんある中でやっている。印刷媒体等でPRをされて、市でいえば広報に掲載し、また、それ以外の情報誌に掲載していただいて情報発信し、さらにホームページ等で掲載していくかたちで一般の方にはお届けしている状況ですけれども、その後具体的な動きがありませんので、発信が今の段階ではとどまっているところだと思います。

山本委員 一般の市民にとって東京オリンピック・パラリンピックが動いているという実感が分かるような情報発信がないと感じる。関係している人のみ知っているだけでは、東京オリンピック・パラリンピックを誘致した意味がないと思う。その辺は工夫が必要ではないか。

諸星部長 事前キャンプの誘致等はこれから具体的に動き出す展開になろうかと思っておりますので、今後情報発信ができると思っております。また、西部連絡会の動きを受け

止めて、配付しました小田原映画祭のチラシですが、実行委員会の中でオリンピック・パラリンピックに関するプログラムを取り上げてもらっています。昨年が東京オリンピックから50年という年でしたが、2つのオリンピック・パラリンピックをテーマにして、1つは今年、市川監督が生誕100年という年でもありましたので、「東京オリンピック」の上映を10月3日に、1つは風祭にあります、今は独立行政法人になりました箱根病院ですが、もともと戦争で怪我をされた方々のリハビリ施設だったわけですけれども、そちらから東京パラリンピックで選手が19人出られてメダルをかなり獲っております。また、選手宣誓をされたのも箱根療養所の方でしたので、そういったことを御紹介する機会です。こういったこともひとつの情報発信となると思います。

江島会長 他にはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。
今後より一層スポーツ振興を図るための御意見をいただきありがとうございました。

司 会 それでは皆様、長時間にわたり御審議くださり、誠にありがとうございました。これをもちまして、平成27年度第1回小田原市スポーツ推進審議会を終了いたします。本日はありがとうございました。